

記念論集刊行にあたって

広島文化学園大学学長補佐・
大学院社会情報研究科研究科長

松尾俊彦

このたび、2019年9月末をもって、広島文化学園大学院社会情報研究科が閉院いたしました。広島文化学園大学大学院社会情報研究科の20年間にわたる学術研究の成果を広く情報発信するために記念論集の形で刊行いたしました。まずは投稿いただいた執筆者各位ならびに編集委員の方々のご協力に厚くお礼を申し上げます。

広島文化学園大学大学院社会情報研究科は、2000年呉大学社会情報学部を基礎とした大学院として発足しました。社会の情報化により、コンピュータをはじめとする情報機器及びそれを応用した情報処理技術は人々の日常生活に浸透しており、高度情報社会の中で活躍できる人材の育成を目的としていました。

また、2002年には博士後期課程を設けました。高度情報社会がもたらしている諸問題を、情報科学の知識を用いて学際的・総合的視点から自立して研究できて、大学、研究機関、企業の研究部門で活躍できる人材の育成を目的としました。

発足以来、課程博士4名、論文博士2名に学位博士（学術）を授与しました。また、学位修士（社会情報）を36名、学位修士（学術）を152名それぞれの学位を授与してまいりました。これらの学位取得者が多方面で活躍されています。研究科の人材育成という大きな役割を果たすことができました。

本研究科に続いて2005年看護学研究科、2007年教育学研究科が発足しましたが、社会情報研究科がその礎となっています。

最後になりましたが、今後とも、皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。